

1年1組

 季節を味わう1年1組
 ～お月見ステージを開きたいな～


お月見ステージを開こうよ！

「秋になったら、みんなでお月見をしようよ」季節を味わう1年1組の子どもたちが『七夕まつり』での経験を活かし、新たに動き出した夏休み明け。「みんなでお月見ができるステージが作りたいな」「お月見だんごを作って食べようよ」「お月見パーティー開きたいね」次から次へといろいろなアイデアが溢れてきました。まずは、1組の学級園に『お月見ステージ』を作ることになりました。

早速、整地から始まりました。みんなで土を掘り返したり、トンボで平らにしたりしました。整地が終わると、土台になるビールケースを並べ、その上にベニヤ板を置き、ベニヤ板の上にワンバイ材を釘で打ち付けていきました。「トントントン…」軽快に釘を打っていく音が自然体験園に響いていました。何日も作業は続いていき、とてもすてきなステージが完成しました。

お月見だんごの調理は、世の中の状況から難しさを子どもたちも感じていました。しかし、学習を進めていく中で、『ピカピカ泥だんご』という本と出会い、「ねえ！みんな、泥だんごで、ぴかぴかお月見どろだんごを作って飾ろうよ」という意見が出ました。土いじりが好きな子どもたちが多く、あっという間に泥だんごづくりが始まっていきました。ピカピカがポイントのようで、泥だんごの研究がいろいろなところで始まっていきました。

活動していく中でも、日々コロナ禍の情勢は変わっていき、本当に夜みんなで集まってお月見ステージが開けるのか、子どもたちも不安な日々を過ごしていました。ある日の朝の会で子どもたちにとって、うれしい瞬間が…「お月見ステージを開けることになったよ」2秒ほどの沈黙の後、「やったあ」という歓声が1組の教室に響き渡りました。近くのお友だちとハイタッチをする子ども、目と目を合わせて笑顔で頷き合う子ども、両手を目いっぱい突き上げ、ガッツポーズする子ども、とても温かな空気がいっぱいになった瞬間でした。

9月21日（火）の夜、自然体験園で『お月見ステージ』を開くことになりました。子どもたちの活動への意欲がさらに高まり、お月見泥団子グループ、ステージグループ、池グループがそれぞれの願いをもって活動していました。

ステージや池も出来上がり、実際にステージにのってみたり、寝転んで空を見てみたり、当日を想像しながら、出来を確認し合う様子が伺えました。「お月さまと池って何かよくないかなあ」Bさんの突然のつぶやきが、回りの子どもたちの心を動かし、いつの間にか誕生した池グループ。ブルーシートに隙間がないか、水を入れてみたり、池の淵のレンガを土で固定したりする活動が見られました。最初に入った生き物が『やご』で、次の朝は『どじょう』と『カエル』が仲間入りしました。水草がほしいと大池へ探しに行く姿も見られました。

お月見泥団子グループでは、当初同じ大きさでお団子を積む計画でしたが、活動を続けてくる中で、「私の大き



さ」というこだわりが出てきて、大きさを揃えるのではなく、それぞれが一番いいと思った大きさに泥団子を作っていくことに、子どもたちの話し合いの中で決まっていきました。当日は、様々な大きさのお団子が並ぶことになりそうです。

今までで一番の月と空だね！

「いままで、いちばんの『つき』と『そら』だね」お月見ステージが始まり、本当に歌に出てくるような、まああるいままあるい満月を見上げてすぐに、Nさんが言った言葉です。しばらく黙って月を見上げていると、子どもたちは、自分たちで作ったステージやブルーシートの上で、笑顔で時折真剣な眼差しで満月を見上げていました。目に入るものだけではなく、耳を澄ますと虫たちの声が本当に美しく聞こえてきました。Tさんは、「あんまり虫の声って気にしていなかったけど、こうやって聞くとすごくきれいだし、なんか気持ちよくなる」と私に言いに来てくれました。本や写真、映像などよりも本物に触れるということが、どれほど子どもたちの心に響くのかということを実感することができました。Eさんが提案してくれた、本当の満月を見ながらみんなで『月』を歌おうよという時間には、加藤先生のオルガンの音に合わせて、みんなで心地よく歌うことができました。遅い時間にも関わらず、子どもたちのリクエストに応じて学校に残っていた加藤先生には、本当に感謝です。Mさん提案のナイトツアーでは、「ちょっとこわいなあ」という子どもたちや「ぜんぜん平気だよ」と妙に口数が増えた子どもたち。きっとどの子どもたちもときどきでいっぱいだったのではないのでしょうか。みんなで列になって、懐中電灯片手にツアースタート！子どもたちの振り返りを讀むと、「いつものジャングルジムが何だか違う感じに見えた」「冒険に出かけたみたいですごくときどきわくわくした」などという言葉が並んでいました。大岩がある岩山で一度止まって月を見上げると、「さっきよりも少し月が近くなった気がする」と言う子どもたち。いつも遊んでいる自然体験園ですが、お月見という特別な日のおかげで、また違った一面が見られ、さらに私の大好きな自然体験園になっていったように見えました。

お月見の翌日には、音楽の時間にナイトツアーの歌を作りました。その後、お月見の歌もでき、子どもたちは楽しそうに口ずさんでいます。

1組みんなで見上げた先に見えた、美しいお月さま。これから先、何年、何十年経っても、ふと空を見上げた時にそこある月を見て、それぞれが明日への一步を踏み出していける、そんな経験となったような気がします。「ねえ、みんな次はさ…」これからも季節を味わう1年1組の学びは続いていきそうです。

これから先、何年、何十年経っても、ふと空を見上げた時にそこある月を見て、それぞれが明日への一步を踏み出していける、そんな経験となったような気がします。「ねえ、みんな次はさ…」これからも季節を味わう1年1組の学びは続いていきそうです。

